

J-15 考古学

発掘調査で 何がわかる?

見学ノート

土の中に残された痕跡

わがしたちの足元、つまり地面の下には、遠いむかしから現代にいたる人々の営みの痕跡が残されています。これをわがしたちは、「遺跡」とよんでいます。この「遺跡」を適切な方法で掘りおこして、様々な情報を取り出し、記録して、未来へ引き継げるようまとめる行為が「発掘調査」です。「発掘調査」は考古学の研究方法のひとつで、文字がないはるか昔や、文字がある時代でも、記録として残されながら人々の暮らしの様子をうかがい知ることができます。

この展示では、県内のさまざまな遺跡の『発掘調査の現場』にスポットを当てて、むかしむかしの福島についてどのようなことがわかつてきているのか、また、発掘調査はどのようにしておこなっているのか、わかりやすく紹介していきます。



名前 大木 Q(キュウ)
土器の妖精
年齢 4800歳くらい
座高 36.5cm
趣味 縄文土器づくり

Qくんのモデルになった
本宮市の高木遺跡出土の
縄文土器

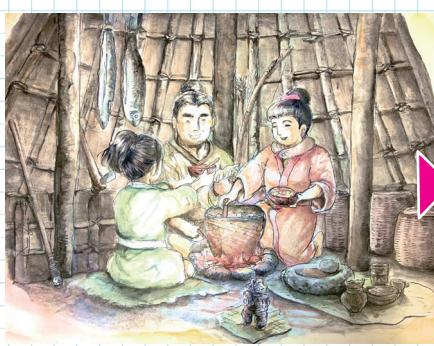


名前 天光くん
性格 好奇心旺盛
名前 和泉ちゃん
性格 しっかり者



遺跡はなぜ土の中にあるの?

『遺跡』と聞くと、エジプトのピラミッドや、ペルーのマチュピチユなどの特別な場所というイメージがあるかもしれません。でも、日本列島を生きたわがしたちの遠い遠いご先祖様が暮らした痕跡は、ほとんどが土の中あります。なぜ、土の中にあるのでしょうか。遺跡が遺跡になる前、そこに人が暮らしていく時代にタイムスリップしてみてみよう!



たて穴住居に住む家族が、団らん中。食事を囲んでいます。お父さんの大切な弓矢や石斧、穴を掘るための道具。お母さんが作った土偶や土器。少年がつかっている木の実をいれるカゴや、それらをすりつぶす磨り石や石皿など生活には欠かせない道具が所狭しとおかれています。

縄文家族の団らんから数十年。だれも住まなくなつたたて穴住居の屋根と柱は朽ち果ててしまします。近くに住む人がゴミを投げ込むこともあります。そして、落ち葉がつくる腐植土や雨水などで、土も流れ込みたて穴住居が埋まっていきます。

朽ち果てたたて穴住居は数百年の年月をかけて完全に埋まり、原っぱになりました。おや、イノシシの親子がこちらをのぞいています。ここに縄文家族が暮らしたたて穴住居が埋まっているなんてだれも知りません。あなたの足元にも埋まっているかもしれません。

発掘調査ってどんなことをしているの?

土に埋もれた遺跡が、建物や道路などをつくるための開発行為によって失われる前に、発掘調査をおこない遺跡の記録を残します。このような記録保存のための発掘調査は、主に都道府県や市町村の教育委員会が中心となって年間およそ8000~9000カ所でおこなわれています。ここでは、たて穴住居跡の発掘調査の流れを紹介します。

歴史の研究目的の調査
は「学術調査」といつて、
全国で年間300件ほどおこなわれて
いるよ。

①遺跡の範囲と性格を確認する



土器や石器が落ちていないかさがしたり、地元の人に聞いて情報を集めます。遺跡があるとわかつたら、その土地の何が所かに試し掘り(小規模な溝を掘る)をして、どんな時代や性格の遺跡なのか、範囲や深さなどを調べます。

観察の結果を図面や写真撮影して記録します。



出土した土器や石器などの遺物は出土地点を記録しながら、取り上げていきます。

③たまついた土を記録する

遺跡の中で遺物がどこで、どのように出土したかの情報が昔の人々の様子を解き明かすために重要になります!!

たて穴住居跡がどのように埋まつたかを観察するために土の帯を残して掘り断面図(図1)を作成します。土のたまり方をみると、住居が使われなくなつた後に一度に埋めてしまつたか自然に少しずつ埋まつたかその土はどこから流れ込んだ土なのかなどがわかります。

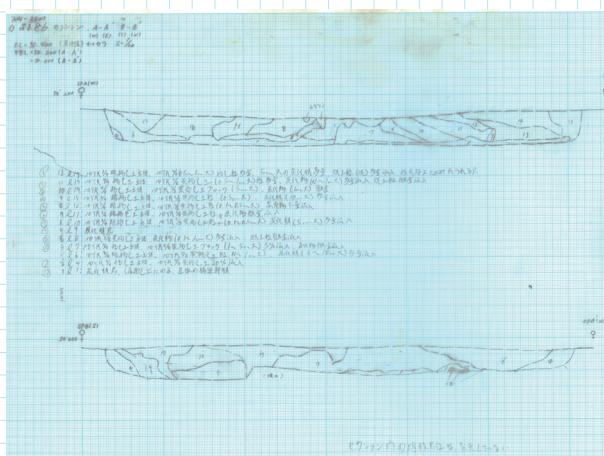


図1 土のたまり方を記録した『断面図』

②遺構をさがす



どうしてたまつた
土と周りの土は色
が違うのかな?

土を平らに削って色の違いを見極めます。たて穴住居などの人間が地面を掘つた場所には、周りの土と違う色の土がたまります。どうやら黒っぽい土は円形や椭円形のたて穴住居跡が重なつている場所だつたようです。

④図面を作成する



杭を基準に住居全面に糸を張り、そのマス目を利用して平面図を描きます。

たて穴住居内にたまつた土をすべて取り除いた段階で、写真撮影をおこないます。また、住居の大きさや柱穴や炉跡の配置などを記録するため、測量して平面図(図2)を作成します。近年はデジタル機器をつかって測量することも多くなってきています。

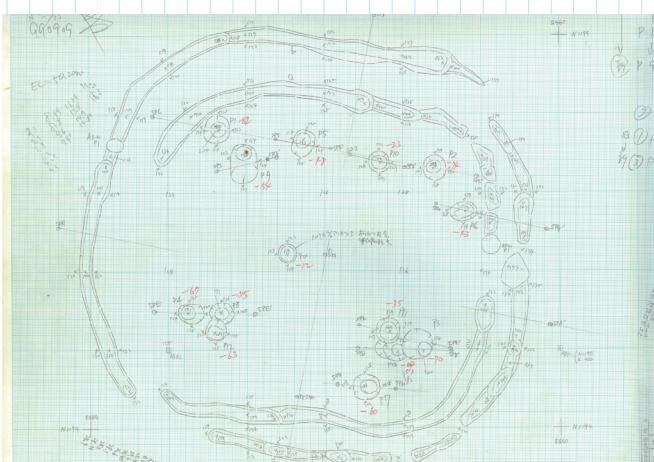


図2 住居の大きさや柱穴などを記録した『平面図』

ほかには何がみつかったの？

遺跡から掘り出された様々な痕跡は、当時の人々の様子をわざといたちにおしゃれてくれます。ここでは、当時の暮らししづらを今に伝える遺構（地面に残された痕跡）や、自然災害の跡など、いろいろな調査事例を紹介します。

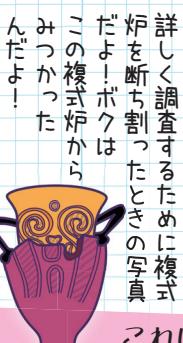
縄文人を襲つた
大地震の
痕跡！？

地割れの痕跡 段ノ原B遺跡（相馬市）



この地割れの痕跡は、長さ92m、幅2~6m、深さ1~2mにおよびます。

縄文時代前期（約6500年前）の集落を大地震が襲つた時に地面が大きく割けた『地割れ』の部分からは、縄文土器の破片もみつかっています。この地割れ跡からわずか15mの距離に、同時期のたて穴住居がみつかっています。目の前で地割れを目にした縄文人もいたかもしれません。地震があつたあとも、同じ場所に住み続けていたようです。



これは、縄文時代のたて穴住居からみつかった煮炊きをするところ、つまりキッチンです。このような形の炉を『複式炉』といいます。石が敷かれたところや土器が埋められていたところで火を焚いていたようです。縄文時代の中頃（約4500年前）の東北地方、特にここ福島県のあたりで大流行しました。この複式炉を半分に割って詳しく調査したら、複式炉のリフォームにともなって新たな土器が重ねられたことがわかりました。

落とし穴の断面 登戸遺跡（猪苗代町）

沼沢火山
大噴火？！

火山灰の層

遺跡からは、シカなどの動物をとらえるために作られた落とし穴がたくさん見つかることがあります。この穴には縄文時代前期の終わり頃（約5400年前）に噴火した沼沢湖（金山町）から飛んできた火山灰がたまっていました。このことから、この穴はそれよりも前に作られたものだということがわかります。

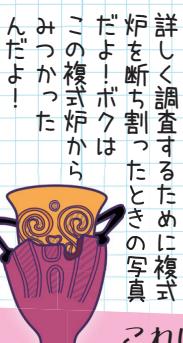
足跡がついた水田跡
大森A遺跡（相馬市）

水田から
みつかった
足跡！？

古墳時代の後半（約1500年前）の田んぼの跡からは、人間のほか牛とみられる動物の足跡がみつかりました。



足跡
のも
か
ない牛
ての



井戸跡 桜町遺跡（湯川村）

井戸は
タイムカプセル！？

昔
た
た
い
に
ね
ム
届
け
が
て
わ
せ
く
れ
し

発掘調査がわかるたらどうするの?

発掘調査でみつかった土器や石器、作成した図面や写真は整理作業室に運ばれます。そして、調査の記録をまとめた『発掘調査報告書』という本をつくるための整理がおこなわれます。この『発掘調査報告書』が、開発によって壊されてしまう遺跡の内容を未来に伝えるものとなります。そして、出土品や写真などの資料は展示会で公開したり、活用するためにきちんと整理して、収納されます。



報告書の図番号、市町村名、遺跡名、出土地点、出土層位、出土年月日などの出土情報を略号で記入します
土器の裏面

土がついている出土品は、水で洗ってきれいにします。縄目が消えたり、表面に傷がつかないようにブラシでていねいに洗います。乾燥後は、裏面の目立たない箇所に出土情報などを書き込みます。



遺跡の様子を伝える大切な資料です。あなたの近くの遺跡の報告書もあるかも!

少し前までは、図面の清書は手書きで行われていました。

パソコンで、断面図や平面図、出土品の実測図、執筆した文章などを編集していきます。できあがった発掘調査報告書は、まほろんや県立図書館などで、誰でもみることができます。



ジグソーパズルのように組み合わせていきます。

元のかたちに近づくように、修復します。

土器の特徴や出土した地点を参考にしながら、破片をつなぎ合わせます。しかし、すべての破片が完全な形に組みあがるとは限りません。破片がみつからない箇所には修復剤をいれて形を補います。



拓本とは、墨と紙を使って土器などの文様を写し取る技です。→

土器や石器などの出土品をよく観察して、大きさ・形・文様・特徴・製作技法などの情報を図で表現していきます。また、土器の文様などをあらわすために拓本をとることもあります。



箱には、出土情報や報告書の掲載ページの他にどの場所(箱の住所)に戻すかなどの解説が記載されています。

福島県教育委員会が発掘調査した出土品や調査時に作成した図面・写真などは、まほろんに収蔵されます。必要がある時にはすぐに取り出せるよう様々な工夫をしながら安全に保管しています。



→収蔵品を学校等に持って行って紹介する「おでかけまほろん」

←さまざまなテーマで開催される企画展示

まほろんでは、収蔵品を保管するだけでなく、多くの方に楽しみながら歴史と文化財への理解を深めることができるように、展示や昔の技術にふれる事のできる体験学習などで活用をしています。



未来へ引き継ぐ

発掘すると次々に新しい発見があるので、どんどん発掘したほうが楽しいと思います。でも、遺跡を残しておけば、科学技術が進歩したときに、より精度の高い調査ができるようになります。実際に、近年の調査技術や出土品の保存技術の進歩には目を見張るものがあります。しかし、遺跡を守るためにすべての開発を止めることはできません。福島県文化財センター白河館(まほろん)は、今できる最善の方法で遺跡の情報と出土遺物を保存し、これを多くの人に知っていただき、未来に引き継いでいくという役割を担っていきたいと考えています。